

開催日時：令和4年7月29日（金曜日） 18時00分から20時00分

開催場所：神奈川県庁新庁舎9階 議会第6会議室（オンライン会議を併用して実施）

出席者：小川司、関ふ佐子、種子島幸、常盤健嗣、西川りゅうじん、萩裕美子、藤田純子、
松行美帆子、蓑宮武夫、麦倉泰子、佐野淳〔計11名〕

次回開催予定日：未定

問合せ先：政策局自治振興部地域政策課地方創生グループ

電話 (045) 210-3275（直通）

ファクシミリ (045) 210-8837

1 開会

- 合田地域政策課副課長： ただいまから、神奈川県地方創生推進会議 総合戦略推進評価部会（基本目標2・4）を開催させていただきます。本日はお忙しい中ご参加いただきましてありがとうございます。本日、司会進行を務めます、地域政策課副課長の合田と申します。よろしくお願ひいたします。

はじめに、本日の会議を円滑に進めるために、皆様にお願ひがござひます。会議全体を通じて、マイクをミュートにさせていただき、ご発言される時だけマイクのミュートを解除してご発言くださひますようお願ひいたします。ミュートの設定は、皆様のZOOMの画面左下にマイクのボタンがござひますので、そちらをクリックしていただきますとミュート設定が解除されます。もう一度ボタンをクリックしますと、ミュートは解除されます。ミュートにされませんと、周囲の音やご自身のキーボードのタイピングの音などを、マイクが拾ってしまう可能性がござひますので、ご協力くださひますようお願ひいたします。

（合田地域政策課副課長から配付資料を確認）

- 合田地域政策課副課長： 続きまして、自治振興部長の高安からご挨拶申し上げます。
- 高安自治振興部長： 神奈川県自治振興部長の高安と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。委員の皆様には、大変ご多忙の中、会議にご出席をいただきまして、厚く御礼を申し上げます。
県では、2015年度に第1期の総合戦略を策定し、総合戦略に示した施策の進捗状況につきまして、毎年度評価を行いまして、施策の成果や課題を分析して、必要な改善・見直しを行ってまいりました。第2期におきましても、第1期と同様に、進行管理することを想定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、第1期と同様の評価を実施することは困難となりました。しかし、地方創生の取組みを着実に進めるためにも、県の事業部局による一次評価の省略など、事務の見直しを行いつつ、推進会議の皆様の評価をいただきまして、評価報告書を作成するなど、コロナ禍におきましても、これまで築いてきた地方創生の歩みをとめず、推進会議の委員の皆様をはじめ、民間の方々や、市町村とも連携しながら、共に神奈川の地方創生の実現に向け、前進していきたいと考えております。
本日は、総合戦略の4つある基本目標のうち、基本目標2「国内外から神奈川への新しいひとの流れをつくる」と基本目標4「活力と魅力あふれるまちづくり・誰もが活躍できる地域社会づくりを進める」につきまして、コロナ禍における県の取組みや、WITH コロナでの県の今後の取組みに向けまして、忌憚のないご意見を頂戴したいと考えてござひます。どうぞ活発なご議論をお願ひ申し上げたいと思ひます。本日はよろしくお願ひいたします。
- 合田地域政策課副課長： 続きまして、本県の新型コロナウイルスの状況について、足立原医療危機対策本部室長からご説明させていただきます。足立原室長、よろしくお願ひいたします。

(足立原医療危機対策本部室長から「参考資料1」について説明)

- **合田地域政策課副課長**： ありがとうございます。医療危機対策本部室長は、業務の都合によりここで退室させていただきます。

次に、人事異動等により変更のあった委員についてご紹介いたします。「参考資料2」をご覧ください。部会基本目標2・4では、公益社団法人日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会会長 常盤健嗣委員、また、神奈川県商工会連合会理事 藤田純子委員、以上、2名の委員に新たにご就任いただいております。

ここで議事に入る前に、議事の進行についてお諮りいたします。本来であれば、牛山部会長に議事進行をお願いするところですが、本日、牛山部会長から、体調不良のため欠席の旨連絡がございました。牛山部会長からは議事進行を事務局で代行するよう依頼されておりますので、本日は事務局で議事を進行し、結果を部会長に報告するという流れとしたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

- **全委員**： 異議なし

- **合田地域政策課副課長**： ありがとうございます。それでは本日の議事を、自治振興部長の高安が進めさせていただきます。では、高安部長、よろしくお願いいたします。

2 議事

議題(1)「第2期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取組結果について

ア 基本目標2

- **高安自治振興部長**： 自治振興部長の高安でございます。僭越でございますが、早速議事の進行に入らせていただきたいと思います。初めに、「参考資料3」によりまして、今年度の「評価報告書(素案)」の作成につきまして、地域政策課長の高木から説明いたします。

- **高木地域政策課長**： 地域政策課長の高木です。よろしくお願いいたします。「参考資料3」をご覧ください。2021年度分の評価をさせていただければと考えております。表の形になっております。小柱につきましては、これはいわゆる自己評価ということで、県の私どもで様々な分析をして評価をしてきたところですが、これについては実施しないということにさせていただいております。それから、基本目標の評価を4段階評価で行いますが、こちらが二次評価で、地方創生推進会議の皆様方から頂くとしているものでございまして、これにつきましても、4段階評価というものはやめますが、進捗状況について様々なご意見を賜るという形で進めさせていただくということでございます。

具体的に、地方創生推進会議の皆様方から頂きたいご意見といたしまして、「参考資料3」の2番のところに記載してございます。こちらは昨年と変わりませんので、今、殊更に読み上げませんけれども、このような形をお願いいたします。

最後の3番のところ、評価報告書案への反映ということで、今回、先ほどからお話させていただいており、部会長がいらっしやいませないので、全体あるいは基本目標ごとに、皆様方からいただいたご意見を部会長にご報告いたしまして、その上で、部会長の指示を受けまして、評価報告書案という形で記載してまいりたいと考えてございます。そのような形で進めさせていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。私からは以上です。

- **高安自治振興部長**： 続きまして、基本目標ごとに議論を進めてまいりますので、まずは「資料1」「資料2」の基本目標2につきまして、地域政策課長から説明をいたします。

(高木地域政策課長から「資料1」「資料2」の基本目標2部分の概要を説明)

- **高安自治振興部長：** それでは、ここからは議論に入りたいと思います。「資料1」及び「資料2」の基本目標2の資料内容につきまして、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。会議時間が限られておりますので、皆様のご専門も踏まえながら、大変恐縮でございますが、私からご指名をさせていただきます。ご指名を受けた方はご発言をお願いしたいと存じます。また、できる限り多くの方にご発言をいただきたく思っておりますので、これも大変恐縮でございますが、お一人につき2分程度を目安にいただければと考えてございます。

なお、事務局でタイムキーパーをさせていただき、時間となりました場合には、ご意見をおまとめいただきたい旨、ZOOMのチャット機能を使って、事務局からメッセージを送らせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは最初に、種子島委員、よろしくお願いいたします。

- **種子島委員：** TVKの種子島と申します。よろしくお願いいたします。基本目標2について、私から気が付いたことと申しますか、申し上げたいことが2点あります。まずは「資料1」35ページの観光資源の発掘や磨き上げのところなのですが、観光資源の開発というところは、民間事業者との連携、旅行会社を始めとした連携が非常に重要になってくるころだと思っておりますが、やはりその観光コンテンツというところで、もっと広く民間事業者の方と連携ができないかということをおもいました。コロナ禍で、すごく成功した事例だと思ったのが、県が多分関わってはいないと思うのですが、県内の車のディーラーさんがスタンプラリーというのを実施していて、酒蔵、お酒の需要も下がっていて、神奈川県酒蔵というそれほどメジャーではないけれども、結構風光明媚で、お水の綺麗ないいところに点在しているというのを、車でめぐって、全部回ると何かいいものがもらえると、その車のディーラーさんの何かグッズがもらえるというようなもので、車で行かれるので、一升瓶で買って行けるし、車でないと行けないようなところを巡れるというアイデアがすごくよかったと言って、第2弾もやるというような話も伺いました。なので、純粋なツアーとして、お金を、旅行事業者が儲かるとかというのではなく、間接的に、その事業者の盛り上げとかPRとかに繋がるというような、もうひとひねりした事業者との連携みたいなものが何かできるアイデアがあるのではないかと。逆にそのようなアイデアを持ったツアーに対して、補助金とか助成金を出すといったもう少し広い意味でのサポートができるのではないかとおもいました。

二つ目が、それと関係してくるのですが、「資料1」46ページの関係人口の創出を通じた移住・定住の促進というところなのですが、移住してもらうことが前提の説明会ですとかそういう部分がこの事業だと思っておりますが、いきなりどこかに移住しようという考える手前の段階があると思うのですが、やはり何かその関係人口の関係を作る部分のサポートというのが、もう一息足りていないと感じました。例えばスポーツで、相模原、宮ヶ瀬あたりのサイクリングですとか、自転車ですとよく楽しむとか、キャンプをすとか、あとは海の周りですと、そういうマリンスポーツを楽しむ方とか、あとは農業で何か作物を育てたいとか、そういうものも関係あると思うのですが、そのようなライトな関係人口をもう少し増やすような施策があるといいと思いました。いきなりここに住みたいとピンポイントで思う前の段階のサポート、ちょっと具体的に今思いつかないのですが、2ヶ月に1回ぐらいの何か農業の参加プログラムとか、耕作放棄地を使ったような、何か定期的にそこを訪れるようなプログラムの作成とか、移住一歩手前のサポートというのが、何か施策としてあるといいと思いました。以上です。

- **高安自治振興部長：** ありがとうございます。続きまして、西川委員、よろしくお願いいたします。
- **西川委員：** よろしくお願ひします。皆さんありがとうございます。拝見しましてですね、神奈川県はまさにマグネットになっていると、コロナの中でも頑張っているというのを私は実感しました。といいますのは、昨年、ご存知のように2021年は1958年の人口統計の開始以来、初めて神奈川県は人口は減少するのではないかと見られていたのですが、逆にコロナ禍で、神奈川県に移住している方々が増えて、自然減を、人口の自然減を上回る社会増になったというのは大きな成果と言えるかと思ひます。

そんな中で今後考えていくべきことは、今、オミクロン、BA. 5、そしてまたケンタウロスと言われるより感染力の強い株が入ってきており、また、サル痘も日本で既に2人見つかったわけですが、ニューヨークは1000人を超えており、サンフランシスコは緊急事態宣言が出ました。そういう意味では、これから連続パンデミックの時代と言わざるをえない状況にありますので、常にアップ・アンド・ダウンしていく中でアクセルとブレーキが必要になってくると思います。ですから、早くハンドルを切れるようにしていくということと、もう一つは、本日は県庁に来庁している委員の方とオンラインの委員の方とハイブリッドになっていますが、今後やはり、ハイブリッドの情報発信やハイブリッドの様々なイベントや、すべてのこの県議会を含めた（会議の）あり方、県議会はなかなか難しいと思うのですが、そういうことが必要になってくると思います。

マイクロツーリズムとか、マイクロの地域の小さなコンテンツを大切にしていき、それを発信していくためには、マイクロツーリズムのためにやはりマイクロコンテンツを掘り起こして発信していくことが非常に重要だと思います。そういう中で例えば、今日は、常盤委員と藤田委員が初めてご参加いただいておりますけども、例えば、常盤委員は（公益社団法人日本青年会議所の）神奈川県ブロック長として大活躍で、全国の青年会議所に先駆けて、メタバースの会議をスタートされた方です。全国各地の人たちが、「常盤会長教えてください」というふうに、皆さんが教を請うている方でして、本当に青年会議所の神奈川ブロックが、常盤会長中心に全国をリードされています。そしてまた、藤田委員は、マリーナの小物づくりのワークショップを手がけていらっしゃる、地域に根差した活動されている方々、素晴らしい方々がいらっしゃいます。そういう皆さんを応援する、そして掘り起こして発信していくというマイクロコンテンツを、ハイブリッドで盛り立てていくことが、今後の神奈川県を盛り上げるために、非常に重要であると思います。以上でございます。ありがとうございます。

○ **高安自治振興部長：** ありがとうございます。続きまして、佐野委員、よろしく願いいたします。

○ **佐野委員：** 佐野でございます。昨年、一昨年とコロナ禍でいろんな形で、状況が変わっている中で、臨機応変に、国の施策の関連である旅行費用の県割や、ワーケーションの対応などが十分やれているという印象を持っています。ただ、あと気になることを申し上げますと、例えば県割では利便性に関して、なかなか直前に状況が変わっている中で、致し方ないところもあるのでしょうか、使用できる店舗等が非常に偏っている。また、商業活性化施策のかがわPAYSでも利用店舗の偏りが著しい。せっかくデジタル技術を使って、新しい施策をやるにもかかわらず、一方で、利用者もそうですし、参加する店舗側も、参加申請手続きのハードルが高く、手間がかかるという理由で偏っている。そのあたりの利便性が徐々に経験を積んで上がっていければいいと思っています。

それから、観光のコンテンツ作りでは、現場をよく知っている現地観光のボランティアであるとか、大学等の活用を積極的にすべきと考えます。実際の観光ガイドを経験したり、サークルで観光や地域研究をやっている人とか、民間のNPO等いろんな地域の観光に携わっている人たちからアイデアを募集してコンテスト的に、いろいろな行政の支援や補助も加えながら進める。草の根レベルの人たちからの気持ちも盛り上がるし、それに県がサポートする流れができればいいと思っています。

それから、あと基本目標の中でビオトピア未病バレーに関しては、打ち出し方や名称について病気が前面に出ているというような印象が強いので、ネーミングであるとか、PRであるとかを、健康やレクリエーション的な側面を前面に出した方が良く考えます。アピール、PRの仕方を考えていただければいいと感じました。

それから三浦半島、県西地区のレベルアップ、ボトムアップ、その辺は重要なのですが、やっぱり観光を考えると、先端的な、横浜だとか鎌倉みたいのところとうまくマッチさせて、人気地区との組み合わせにより県全体で相乗効果があるような形でやる方が効果的ではと考えます。そこだけにスポットを当てて、県外から来てくださるというの、ハードル高いと感じました。

あと最後には（20）27年、横浜で花博が行われますが、このチャンスを県としても積極的にとらえて、盛り立てていくことが必要と感じています。以上です。

○ **高安自治振興部長**： ありがとうございます。今まで3名の委員からご意見を頂戴いたしました。ここで、地域政策課長からお話をさせていただきたいと思います。

○ **高木地域政策課長**： 種子島委員、西川委員、佐野委員、どうもありがとうございました。お三方からご意見を賜り、ありがとうございます。共通してお話をいただいたと感じている部分があります。種子島委員におかれましては、民間事業者の皆様方の幅をどれだけ広げるか（というお話でした）。車のディーラーの話もありましたけれども、地元のこともよくわかっているような方々のそういうところをいかに拾い上げていくのか。これは西川委員の、マイクロツーリズムのためにはマイクロコンテンツの発掘が必要だとおっしゃっていたところと共通していると思いました。それから、佐野委員からお話いただきました、いわゆる観光ボランティアといった現場の草の根レベルの方々との連絡を取りながらアドバイスを頂いて、今後このコロナの中でどのような形で、特に観光の関係で動いていくのかというのは様々あるかと思えますけれども、やはりマイクロツーリズムといったような身近な部分で、深く、地域に親しんでいくということというのは、重要なファクターになってくると思えます。一方では、インバウンド、富裕層に向けてといったところもあるのだとは考えますけれども、そういった部分についてしっかり、草の根の部分から、あるいは地域的な部分の様々な関係する皆様方と、いかに上手く連携して、そして、神奈川らしいコンテンツを作っていくのかということにつきましてご意見を賜ったと考えておりますので、担当する観光部局にもお伝えさせていただきたいと思えます。

その他、種子島委員からは、関係人口を増やすというようなお話がありました。これにつきまして、様々なサイクリング、キャンプ、マリンスポーツ等、実際のところ我々も、「関係人口を通じた」という移住・定住につきまして、そういったところも考えていなかったわけではないのですが、コロナ禍で、市町村の皆様方の話を聞くとなかなかそういうことができなくなってきたところもあります。今後この点につきまして、我々の宿題として考えておまして、進めてまいりたいと思っております。そして、それに関しまして、関係人口という観点で言いますと、テレワークがコロナの中で進んでいるということもありますので、そうしたテレワークを進めていくという仕事の観点で地域に関わりを持っていただくということも加味しながら、様々な観点で地域に関わっていく関係人口を増やしていくという、おっしゃっていた「ライトな」という部分、趣味の部分もしっかり入れた上で、仕事に関しても、進めていければと考えております。

西川委員の仰っていた、ハイブリッドで行っていくことが今後必要であるということについて、まさにおっしゃるとおりで、なかなかこれまで、リアルでできないのでリモートで行ってきましたというところがあるのですけれども、これからはハイブリッドという形、それぞれ棲み分けということもあるでしょうし、一緒に行うということもあろうかと思えますので、これは県の施策としてのイベント等々についても共通する部分があろうかと思えますので、関係する部局にも共有させていただければと考えてございます。以上でございます。

○ **高安自治振興部長**： それでは引き続き、委員の方からご意見を頂戴したいと思います。常盤委員、よろしく願いいたします。

○ **常盤委員**： ありがとうございます。私は青年会議所神奈川ブロック協議会の会長を務めております常盤と申します。よろしく願いいたします。また、西川委員からは非常に過分なお紹介いただきまして誠にありがとうございます。いろいろと取り組みをさせていただいております。すいません、私の方から所感になるのですけれども、神奈川県観光魅力創造協議会と、県内観光コンテンツ等も拝見をさせていただきました。そちらを見させていただくにあたって「資料1」35 ページのモニターツアーというところと関わってくるかと思うのですけれども、多くはかなりコンテンツが点になってしまっているのかなというのを感じております。この点というところをどうやって面にしていくかというところが非常に今後重要ではないかと思っております。どうしても観光の拠点、国内の方も国外の方も拠点になるのはやはり横浜とか

箱根というのが拠点になってくるかと思うのですけれども、そこを拠点として、それぞれのニーズに対して、広域的にインフォメーションができるような状態になるとありがたいかなと思っております。自分が、自分の話でありますけど、もし自分が逆の立場で海外とか知らない地域に行くとしたら、例えばそこには何かこう軸にするものがあるって、寺社仏閣をめぐるたいとか、何かおいしいものを食べたいとか、楽しく飲みたいとか、ゆっくり喧騒から離れて、ゆっくりしたいとかそういったニーズを持っていきます。自分ならばというような視点になるのですけれども、相手のニーズを前提として、ツアーに、例えばこの施策にある未病バレーとか、地域の特産品というのを売り込むことができるのではないかなと思っております。ぜひ、こちらからのご提案ではなくて、ニーズにこたえるという観点を再考いただけたらと思っております。

私は青年会議所の神奈川ブロック協議会という組織に属させていただいているのですが、県内で働いて、住まう、土着の経済人の方と交流する機会が非常に多くございます。ローカルな魅力に触れることが多々ありますし、日々ございます。「資料1」45 ページの地域資源を活用した魅力づくりについては、地域のディープコンテンツとかを知る人間も多くいますし、例えば「資料1」46 ページの就職を神奈川にしてもらう、移住定住というところにおいては、就職を神奈川に選択してもらおう等の企業を生かした取り組みについても、青年会議所を神奈川ブロック協議会の人の強みというのはぜひ、お使いいただきたいと思っております。

また、最後になりますが、西川委員から最初ご紹介いただきました通り、仮想空間の取り組みをさせていただいて非常に手応えを感じるの、仮想空間で、本当に場所を選ばない。例えば端末一つあればできるものです。そういったものを使った案内というのも有用ではないかなと感じるとともに、やって思ったのが、海外とかではもうDX、デジタルトランスフォーメーションは想像以上に日常に溶け込んでいるなど、非常に私、過分にご紹介させていただいて、誰よりも早くやっただとお話いただきましたけれども、全然世界に比べたら遅いと改めて実感する機会になりました。相手の生活とか、お考えとかを元として、施策をぜひ検討していただくことをお願い申し上げて、簡単でございますがご意見させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

- **高安自治振興部長：** ありがとうございました。それでは続きまして、藤田委員、よろしく願いいたします。
- **藤田委員：** 本日は初めまして、藤田でございます。よろしく願いいたします。私はまだ勉強不足のところがあって、ご意見というほどではなかなかないのですけれども、私もワークショップとかやっているというのがあるのですが、「資料1」43 ページのマグカルの推進みたいところで、やはり地域に根差したものに触れていただくというのが、やはりいい試みだと思いました。コロナの部分があって実際体験ワークショップみたいな体験がなかなかできなかったということですが、これはある意味コロナで仕方ない部分もあるのですが、そのハイブリッドとかで、開催することによって、地元には行けなかったけど今度行ってみようとか、体験してみようというような気持ちにさせるというのが、一度、現地に行ってみたいよね、食べたいよね、遊んでみたいよね、っていうような気持ちにさせるっていうところですね。実際、体験できなかったら大変残念なのですが、そういったこともできますよというような発信をしていくのは、またこれから先もまだ大事と思って、ちょっとまた、(コロナ感染者数が)いろいろ増えてきていることもあるので、現地に赴くというのがまたちょっと皆さん足が遠のいていると思うので、その遠のいてしまう足をそのまま見送るのではなくて、ハイブリッドな感じで、もし、ご近所でそんなに遠いところからいらっしゃるのではなかったら、実際にちょっとならいいかな、お泊まりで1泊ぐらいなら来てみようかなとか、日帰りだったら何か行けそうだな、という方が現地に来ていただいて、今の時期だと幾らか不安だなんていう方にはそのハイブリッドな感じで、実際現場に行った方と同じような目線で見て回れるような、座学みたいなものではなく、カメラも一緒についてもらって、体験、現地の実際のものを見ていただくというようなことがこれからも続けていければ、普通はこれまでできなかったかもしれませんが、次回行ってみよう、次行ってみようっていうような、お客様というか、外からいらっしゃる方に

しても、ちょっと移住とか、ちょっとそこまで考えられないなというような方も、ちょっとなんか見てみようっていうような期待を持たせる、残すような感じの方向へ、また進んでいけると良いと思いました。

○ **高安自治振興部長**： ありがとうございます。それでは、委員から頂いたご意見に関しまして、地域政策課長からお話をさせていただきます。

○ **高木地域政策課長**： 常盤委員、藤田委員、どうもありがとうございました。お二方から頂いたお話で、いわゆるバーチャル、仮想空間というものの活用というのも十分取り入れていくと面白いのではないかとことだと思えます。地域に根差したものに触れていきたくてもなかなか触れられないということであれば、まず仮想空間というところで楽しんでみるという方法があるのだらうということでございます。仮想空間的なものにつきまして、県内の市町村でも一生懸命取り組んでいる市町村等もありますし、観光の中でもそういう形について取り組もうとしているところもございませう。観光部局等々にその辺りのところをお伝えしたいと思えます。

もう1点、常盤委員から、モニターツアーの関係でコンテンツが点になっていて面になっていないのではというご指摘がありまして、ニーズを酌み取りながら作っていく必要があるのではないかとというようなお話も頂きました。先ほどの、佐野委員からも、横浜、鎌倉といった大きなところと、より小さな地域、比較的小粒なのかもしれない三浦半島あるいは県西地域といったもののボトムアップを図るとともに相乗効果を求めていくという部分もそういうことに含まれてくるのではないかと考えます。個々の一つひとつの地域の魅力というものを底上げしながらも、それをいかに上手く面的にしていくのか、あるいは、組み合わせるのかということも、我々は今後、民間の皆様方ともご相談しながら、次のステップとしてしっかり取り組んでいくということの必要性をご指摘いただいたものと考えております。関係する部署に伝えてまいりたいと思えます。どうもありがとうございました。

○ **高安自治振興部長**： それでは、この基本目標2に関しましては、これから自由にご発言いただければと思えますが、他にご意見がございましたら、ご発言をお願いいたします。挙手または画面に向かって手を振っていただければと思えます。いかがでしょうか。

○ **全委員**： 意見なし

○ **高安自治振興部長**： それでは、次の基本目標4に移りたいと思えます。地域政策課長からご説明申し上げます。

イ 基本目標4

(高木地域政策課長から「資料1」「資料2」の基本目標4部分の概要を説明)

○ **高安自治振興部長**： それでは議論に入っていきたいと思えます。「資料1」「資料2」の基本目標4の内容、資料内容につきまして、先ほどと同じように、委員の皆様のご専門も踏まえて私の方から指名をさせていただきます、一通りご意見をいただいた後に、改めてご発言をいただく時間を設けたいと思えます。大変恐縮でございますが、こちらもおひとりにつき2分程度を目安をお願いをしたいと思えます。それでは初めに小川委員よろしくお願ひいたします。

○ **小川委員**： 小川でございます。聞こえますでしょうか。私の所感を簡単にお話しさせていただきます。全体を通して、まず、コロナ禍で進捗状況の表に立てた目標、なかなか難しい部分もありますけど、かなり進捗しているというところで心から感謝いたします、ありがとうございます。それで何点か、意見というところなのですが、まず「資料1」67ページの健康長寿のまちづくり、高齢者になっても活躍

できる社会づくりというところで、実はですね私事になるところであるのですが、コロナ禍で、やはり高齢者の方、やはりなかなか歩きが難しくなって人と接する機会がないので、どうしても認知症になりやすくなる。特に、コロナ禍における介護施設というところで行くと、やはり面会ができないという状況が長く続いて、おそらく今でも面会が制限されている施設はかなりあると思います。そんな中でやはり認知症を発症、あるいは悪化させる、こういった状況が推察されますので、何らかの対応が必要なのではないかと個人的に思っていた時、「資料1」67 ページに記載の認知症カフェのリモート開催に向けた取り組みというところがありまして、ここはかなり進んでいるという評価があって、私もここは非常に重要な話なのだろうなど、できれば、WITH コロナにおいては、やはり介護施設等への展開というところも重要な施策になるのではないかと感じましたので、意見として1点話をさせていただきます。

あと、もう2点ほどあります。「資料1」81 ページ「誰もが活躍できる地域社会の実現」の中に、支え合いによる地域社会づくり、その中にバリアフリーの街づくりの推進で、鉄道事業者が行うホームドア設置への支援という記載がありまして、それから「資料1」87 ページ「持続可能な魅力あるまちづくり」、ここにも同様に、鉄道事業者が行うホームドア、エレベーター設置への支援という記載がありまして、「資料1」87 ページの方のKPI進捗状況の表に、鉄道事業者のホームドアの設置数というところに、10万人以上のホームドアの設置駅数と書いてあるのですが、実は、昨年交通政策基本計画、これは国が策定しておりますけど、見直しが行われて、基本的にバリアフリー化を加速させるということで、数値目標が大幅に変わっております。ですと、10万人以上というところにとらわれることなく、整備を加速させるというねらいで見直しがなされているのですが、この辺を今後、どの段階で、こちらも見直していくのか、その辺はお考えがあればお話いただければと思うのですが、今後の課題になるのではないのかという感じがしております。

それともう1点、バリアフリーに関して申し上げますと、「資料1」77 ページ「①障害者が活躍できる地域社会づくり」のこのところのKPI進捗状況と、あとは今後の取り組み方向性に記載されている心のバリアフリーへの取り組み、推進者をどんどん育成していくというところは、バリアフリーについては、ハード面だけではなく、やはりソフト面というところが非常に重要になると思っております。そんな中で取り組みとしては、推進委員の養成だけではなくて、どちらかという「資料1」81 ページの「誰もが活躍できる地域社会の実現の支え合いによる地域社会づくり」というところで行くと、やはり、バリアフリーの街づくりの推進の中で共助の取り組みとして、心のバリアフリーを広く展開することも必要ではないかと感じております。街中を歩いたり、例えば公共交通を利用したりする場面において、やはり、利用者、高齢者あるいは障がい者、それから、妊婦の方や、子連れの方、いろんな方がいらっしゃいますけど、こうした人たちの移動のしにくさみたいところを、皆、自らの問題として認知することが必要ではないのか、そういった意味で世界的に見ると、実は、日本というのは心のバリアフリーに対する教育が不足している、そういった状況もありますので、今後の対応としてこういった一面もバリアフリーに対する共助というところの取り組みとして入れてみてはどうかと思いました。私からは以上でございます。

○ 高安自治振興部長： ありがとうございます。続きまして、関委員よろしくお願いたします。

○ 関委員： 横浜国立大学の関です。聞こえますでしょうか。私の方からは基本目標4について、質問と意見などを複数させていただきます。基本目標4は、健康長寿のまちづくりを進め超高齢社会を乗り越える社会システムを作っていくことを目標としております。もちろん、この未病対策などは重要ではありますが、コロナ禍ではまずは高齢者がコロナに罹患し、悲しい思いをしないような政策が、より重要であると考えております。「資料1」61 ページにも、地域において、医療介護の連携強化を図り専門的な医療や日常生活を継続する体制等について支援することが重要と書かれています。この点、一つ質問させていただきたい点がござります。神奈川県では、高齢者施設で、コロナに罹患した方が出た場合、その高齢者は病院に入院できるのでしょうか、それとも、基本的な方針は施設にとどまった形で療養するとなっているのでしょうか。聞いた話とかですと、中和抗体療法を実施することで施設に留め置くということが推進されているという話も聞きましたので、事実関係を後程教えていただければと思います。本日も県の

感染状況への対応について、自主療養の推進などについてご説明いただきましたが、同時に、ハイリスク者に重点化するという話もありました。県の方針は、高齢者施設のポリシーについて、どのようになっているのかということをお教えいただければと思います。

なぜこのような質問をさせていただいていることを申し上げますと、高齢者施設は介護施設であって、医療施設ではありません。そこで適切な医療が提供できない状況の改善こそ、基本目標が目指す社会システムとして重要であると考えているからです。施設に入居している高齢者はケアも必要ですので医療機関への負荷が大きい点はわかります。医療ひっ迫の回避は重要ですが、介護施設で、コロナ患者を診なければならぬ体制というのは、高齢者の回復を困難とさせ、守れたはずの命を失う危険性を高めるほか、高齢者をケアする人たちの心身の負担がとてつもないです。「資料1」68 ページには、地域のニーズに対応した医療体制の整備充実ともありますが、コロナ発生前の計画を見直して、こうした体制整備により重点的に予算を割いて、ハイリスクの高齢者のコロナ罹患時にも安心して病院で療養できる体制をぜひ築いてもらえればと思っています。

時間ですがその他最後に一言だけですが、先ほど小川委員も指摘ありましたとおり、感染拡大時の面会制限というのは、ただ生きていけばいいというわけではないので、高齢者の人権という観点からするといい施策ではないと、海外とかではそういうのはもうとられていませんので、もう少し新しい技術等を導入しつつ、そういった制限を緩和できる方向をより進めるということなどに力を入れていただければと思っています。以上です。

- **高安自治振興部長：** ありがとうございます。続きまして、萩委員よろしくお願いたします。
- **萩委員：** ご指名ありがとうございます。声の方は大丈夫でしょうか。私の方からはですね、スポーツ、健康づくりという守備範囲のお話をさせていただければと思います。スポーツ関連、健康づくり関連も、やはりコロナの影響をかなり受けておりますので、今回の評価というは、評価性がないと思います。ただ本当に取組みとして、非常にそれぞれがすばらしい取組みをしておりますので、今後の予定のところにも、「引き続き」という言葉が多いのですが、これまでやろうしていたことを継続して今後もやっていて、しっかり効果が上げればいいのかと思います。
ただ1点、このコロナ禍を踏まえて、オリパラが終わった後に、スポーツ振興の今後の方向性に関して、今、激震が走っています。何かというと、中学校の運動部活動の地域移行という問題が始まります。来年（から）3年間を目途に、土日は地域のスポーツクラブの方に移管していくという話がありますので、今年度いろいろ議論があるかと思うのですが、来年、再来年に入っても、この辺りの問題が、結構影響が出てくるのではないかと、一つ懸念しております。やはり、まちづくりに非常に関連する話であり、学校体育から、青少年スポーツを、地域に持っていこうと動きが、スポーツ庁の方ではありますので、ぜひその辺りを踏まえて、今後の計画を考えていく必要があるのかなというのが1点です。
もう一つは、これはお願いになるのですが、KPIの出し方ですが、やはりKPIは数値目標になるものですから、どうしても実施率だとか、参加率だとかになるのです。しかし、健康づくりとか、例えば健康づくりを支援したということになると、取組みが本当に効果的だったのかどうか、これこそが一つ評価をしていかなければならないところかと思えます。すでにいくつか、県民ニーズ調査というのをなさっていますね、やはり（支援を）受けた方たちがどう受けとめたのか、本当に、今、健康になれたのか、満足したのか、みたいなのも、ぜひ県民ニーズ調査と合わせてですね、KPIとともに、評価の対象にさせていただけるといいと思います。以上です。ありがとうございます。
- **高安自治振興部長：** ありがとうございます。それでは、3名の委員からご意見を頂戴しましたので、ここで高木地域政策課長の方からお話をさせていただきます。
- **高木地域政策課長：** 小川委員、関委員、それから萩委員どうもありがとうございます。それぞれ宿題として関係する部局にお伝えさせていただくことが多くなるかと思いますが、順次お話をさせていただく

と、まず、ホームドアについて、計画が変わったということで、10万人以上というこのKPIは、いつ見直すのかということ、実際に該当している局であります県土整備局等とご相談させていただければと思います。この2021年度まで、コロナの影響等もありませんがそのKPIをどう見直すかということまで我々も実は全体的に検討していなかったのもので、今後、どの部分はもうこの時点でやめるのかどうかということにつきまして、我々の内部で検討をさせていただければと考えています。

それから、小川委員から認知症カフェのお話であるとか、あるいはこころのバリアフリー推進員はこの企業等の中で、そういうものを進めていく方を中心とし、それがいかに街の中の共助とつなげていけるのかということについて、次のステップとして考えるのが良いのではとのご意見を承りました。関係局に伝えて参ります。

次に関委員から、高齢者がコロナの時に入院できるのか、あるいは施設に留まるのかということ、これに関しては、どのような形であるのが望ましいのかということを検討しているということは間違いございませんが、どのような格好で本来的にやっていくのかについては、担当する部局に確認の上、何らかの形で皆様方には、ご質問としていただいておりますので、今現在こういう形で考えているとお伝えできる時期・範囲・時点で、お答えさせていただければと存じます。

それから、萩委員から二つあったと思います。部活動の地域移行の話、いわゆる総合型地域スポーツクラブの関係にもなるかと思えます。県の部局でも、その部分を総合型地域スポーツクラブというものに対して一生懸命やっけていこうとしておりますが、教育との関係が大きな問題になっているということは承知しているところですので、関係部局に伝えて参ります。また、KPIのお話をいただきました。効果がどうだったのか、つまり、「アウトプットというよりもアウトカムとしてのKPIの指標はどれだけ見出せるか」ということで県民ニーズ調査の結果等色々あるかと思えます。KPIにつきましては、そのKPIを取るためだけに調査をするということは避けていますので、なかなか実は効果というところである程度の規模のものをやるとなると、今県民ニーズ調査ぐらいになります。できる限り、実際に携わった方々のご意見を賜るといったことも含めて、それぞれの取り組みごとに必要な見直しについて、まずは地域政策課として、改めて検討させていただきたいと思っておりますので、しばらくお時間を賜ればと存じます。私からは以上です。どうもありがとうございました。

○ **高安自治振興部長：** 続きまして、松行委員よろしくお願いたします。

○ **松行委員：** 横浜国大の松行です。まず、全体としてコロナ禍という大変難しい時期の中で、大変よくやっけていただいていると思えます。その上でいくつかコメントさせていただきます。主に私の専門の「(3)持続可能な魅力あるまちづくり」についてコメントさせていただきます。まず、市街地再開発事業を、今年度いくつかやられて、来年度以降もやられるということですが、こちらは大変結構なことかと思えますが、コンパクト・プラス・ネットワークの実現のためにやられているかと思えますが、再開発だけすれば、コンパクト・プラス・ネットワークというものができるわけではないと思っております。特に駅周辺ですとかそういったところのウォークアブルな都市空間というのが、現在非常に重要だと言われておりますので、そのような環境整備もあわせてやっけていただければと思えます。

あと市街地開発事業どうしてもなかなか保留床が最近、商業の方で売れないので、どうしても上にタワーマンションを建ててというやり方が、メジャーなやり方になってきております。それ自体は、駅の近くに人口を集めるという点では結構なことなのですが、地域のインフラへの負担ですとか、小さいところに、限られたところにたくさんの人口が集まりますので、地域の防災力への負荷ということも言われておりますので、このようなマイナス面も併せて考えてやっけていただければと思えます。

あとは、路線バス等の公共交通の充実確保について、補助をしていただいたということで、こちら大変ありがたいと思っております。ご存知のように、今、地方の公共交通事業者は大変厳しい環境になっており、それがかつコロナ禍でさらに厳しい状況になっておりますので、この点については来年度以降もぜひ取り組みを続けていただければと思えます。

最後ですが、ここだけではなくて全体を見て、防災関係のことがほとんどないと思っております。今、

水害が激甚化していることですか、南海トラフ地震の危険性も言われております。あとそれに伴う津波ですね、神奈川県の場合、このように神奈川県は防災面で非常に高いリスクを抱えておりますので、もちろんやられているとは思いますが、防災面についても重点的にやっていただければと思います。以上になります。

○ 高安自治振興部長： ありがとうございます。続きまして蓑宮委員よろしく願いいたします。

○ 蓑宮委員： 蓑宮です。私は基本目標4の活力と魅力溢れるまちづくり、とりわけ今日は、誰もが活躍できる地域社会を進めるということで、大変このテーマを取り上げたことの意味が、今改めて考えると、非常にフィッダブルではということで整理させていただきます。「資料1」82 ページに書いてあります、SDGsの自分事として地域コミュニティをやろうと云々であります。SDGsは二つの視点があると思うのですね。一つは、皆さんは、SDGsは環境問題がメインと思っておりますがこれは違うのです。17 個の目標があるうちの1から6はですね、実際には貧困をなくそうとか、飢餓をゼロにしようとか、すべての人に健康とか、質の高い教育をみんなに、これらはみんな日本で当たり前に行っていることですが、SDGsという活動を通じて日本人にもっとグローバル視点で、世の中でどのぐらいの人たちがそういう問題に悩んでいるのかと、これについてグローバルの視点を日本人は持つてくれるということが一つ。

それから、そのあとの7項目以降は、これからの世界において、日本みたいな国はリーダーシップ、お手本になって欲しいと、それが地球環境問題とかそういうことであるわけです。そういうことからすると、僕はこの基本目標4は非常に大事だと思うのです。なぜならば、今年の4月からは、一番の日本株市場である経済市場・東京市場では、プライム市場とスタンダード市場とグロース市場という三つに分けました。それで、私もそのプライム市場とかグロース市場の社外取締役やっていて、最大の問題は、実は、日本、非常に男女格差が多いと、それから、日本人と海外の比率で外国人の幹部クラスが少ない、さらに、ハンディキャップを持っている人、障がい者の雇用率がもう法定ギリギリで危ないと、お金払えばいいんだというような問題が多く、大変世界のトップクラスの国から遅れています。実にこれは今考えると、誰もが活躍できる地域社会を進めるという課題で載っているのですね。これから大きく、コロナ以降、取り上げられるのは日本のトップ企業も全部この対応で今追われています。

したがって、私は神奈川県でせつかく黒岩知事が未病という対策で、非常にすばらしい切り口でやったように、実は、神奈川県は明治維新の時に、横浜居留地と言って、外国人を一番早く受け入れたのですね。もう一度、神奈川県はそういうことで、外国人に対するアレルギー、それから外国人と一緒に暮らす、そういういろんな形のカルチャーを、やっぱりこういう活動をして先頭に立ってやれば、極端なこと言うと、移民特区でも作ってですね、外国人を受け入れないと、日本人の心のバリアは、もう本当に1クラスで今の小学校でもほとんど外国人がいない、その中で、ダイバーシティとかね、インターナショナルの考えを持ってということももう、なかなか難しいので、この活動を通じて、もう一度明治維新の頃の横浜居留地、または横須賀居留地というような特区を設けてでも、ぜひそのいろんな問題に積極的に取り組むような、地域モデルを作るべきだと思っていますので、大いに期待をしています。また、併せて、日本人もX世代とかY世代とかZ世代、考え方が違う、その格差の問題も含めてですね、相互に学び、刺激する地域づくりというのを、この活動を通じて、今後、相当大変な問題になると思うので、今から積極的に取り組んでいただけたらいいのではと思っています。できれば、外国人のホームステイを受入れる、例えば、横浜は何件、横須賀は何件、小田原は何件だというようなこともKPIに挙げた方がいいかもしれませんので、そんなことを含めて、この活動を磨き上げることに意味があるのではないかという気がします。以上です。

○ 高安自治振興部長： ありがとうございます。続きまして、麦倉委員よろしく願いいたします。

○ 麦倉委員： 私からは社会福祉の観点からいくつか申し上げたいと思います。ただいま、蓑宮委員の方からSDGsとの関係で男女格差の問題、障害者雇用の問題、それから外国人との共生の問題が挙げられてまして非常にその部分共感しております。まず、「資料1」の中でページ数に沿ってお話をしていきたい

と思いますが、まず「資料1」63 ページ、男女間の問題として未病等の改善する環境づくりということがありますけれども、特に未病女子ナビを確認しましたけれども、内容は非常にいいと思いますが、最近では女性の更年期の問題というのが非常に注目されていて、働く世代で管理職等の役職に就く年代の女性の更年期をどのように理解を進めていくかというのが課題になっているわけです。未病女子ナビ自体はこの世代の問題というところにも、課題というところにも触れられていて、内容として非常にいいと思うのですが、ネーミングの女子という言葉の問題から中高年の女性が自らに有益な情報が載っているサイトだと思わない可能性もあるのではと思いました。ウェブサイトの名前はある程度浸透しているかもしれないので変更は難しいのかもしれないのですが、これをどのように普及をしていくのかという観点から工夫が必要かと思いました。

また同じく「資料1」63 ページで心の健康づくりの推進ということで記載はされているところではありますが、特に女性のメンタルヘルスの問題にもっと着目するべきではないかと思っています。特に自殺予防の観点が重要です。神奈川県ホームページを見ましても、コロナ禍以降女性の自殺数、自殺者数が増加したということが報告をされていて、それに関しては、対策の委員会も立ち上がっているということで、今現在、まさにどうするかというところで話し合われているところかと思いますが、経済的な問題であるとか家族問題等も含めて、相談でき、そして避難をしたりとか、そうした具体的な支援に繋がる取組みというのは非常に重要だと思っています。

また、その他で「資料1」77 ページですけれども、コロナの感染拡大で生産活動が減少している就労継続支援事業所に対して補助を行ったというところで、この点も非常に評価できると思います。特に障害者が活躍できる地域社会づくりというところで、コロナ禍というところでオンライン化に向けた取組みがとても大事だと思います。特に障害支援サービスで働いている人たちの就労支援、就労継続のB型では、1ヶ月の工賃が全国平均で今、15,000 円程度ということで、非常に少ないということもありますので、神奈川においてはこの工賃をできるだけ増やすということを戦略として掲げるべきだと思います。また、先ほどの障害者雇用というものもどんどん増やしていくことが大事だと思います。全国平均で見ると、障害者雇用の法定雇用率を達成している企業が約半数ということで、法定雇用率の達成、そのパーセンテージ自体も非常に低いということもあります。そもそも低く設定されているというところもありますので、そういう意味ではこうした「資料1」77 ページに今後の取組みの方向性として、法定雇用率の未達成企業への訪問の実施ということで具体的な解決というものが書かれていますが、これも大切だと思います。

それから「資料1」78 ページに外国人が活躍できる地域社会づくりということで記載がありますが、特にコロナの感染症の問題で、ワクチンの接種について、外国人の方たちが十分な情報を得ることができなくて、非常に不安に感じたところがあったと報道がされているところでもあります。こうした中で、情報提供を多言語化してきちんと届く形で発信をしていくということが、より重要になってくると思っています。以上です。

- **高安自治振興部長：** ありがとうございます。それでは今まで3名の委員からご意見を頂戴いたしましたので、地域政策課長の方からお話をさせていただきます。
- **高木地域政策課長：** 松行委員、蓑宮委員、麦倉委員ありがとうございます。それぞれご専門の観点からご意見を賜りました。関係する部局につないで参りたいと思います。松行委員からは、再開発事業に関しまして、タワーマンション関係の人口集中のプラスばかりでないマイナスに関連すること、それから、公共交通の支援につきまして、バス路線の支援は引き続き必要であるようにというお話、それから防災に関して、もう少し記述があってもいいのではないのかというご指摘もいただきました。この中で言いますと、今現在、防災の関係に関しましては「資料1」81 ページの「災害に備えた自助共助の取り組みの促進」というところを記載しているところ、実際の取り組みという形で出てくるところが、多少もしかすると弱いところもあるのかもしれないというところで今後の宿題とさせていただければと思います。

蓑宮委員からは、SDGsの観点も絡めまして、経済的な部分での男女差、外国人、障害者雇用というお話の中で、特に外国人の受け入れ、ともに暮らすというところを神奈川県として先頭に立って、それが

SDGsの一つの意味合いということにもなるだろうというご指摘をいただいたかと思えます。担当局に伝えて参ります。

麦倉委員から、社会福祉関係につきましてご指摘をいただきました。具体的には、「未病女子 navi」で中高年の皆様が見にくいのではないのかということも含めて色々いただきました。また、外国人のワクチン接種について届くように発信すべきだというお話をいただきました。問合せに対応するものとして、11ヶ国語で問合せ対応しているという、いわゆる多言語支援センターの対応ですけれども、一方で、ホームページの情報提供でも一応多言語化というところを図っていますが、問合せへの対応とともに情報発信についてもしっかり用意をし、そして外国籍の方がここに見に行けばよいということがわかるような形にするというところであろうかと思えますので、担当局に伝えて参ります。どうもありがとうございました。

- **高安自治振興部長：** それではこの基本目標4に関しまして、自由にご発言をいただければと存じます。他に何かご意見がございましたら、ご発言をお願いいたします。ご発言される場合には、挙手または画面に向かって手を振っていただければと思います。

それでは西川委員よろしくをお願いいたします。

- **西川委員：** 皆さん、大変に勉強なるお話ありがとうございました。コロナでやはり心と体の健康の問題が浮き彫りになったと思います。小川委員もおっしゃっておられたように、認知症の方々が外に出ない、あるいは外に出ないことによって認知症になってしまうような方も多かったと思いますし、それから、先ほど麦倉委員からもお話ありましたけども、今はもう0歳から10歳、10歳から20歳、20歳から30歳の死因の一位は、コロナとかがんとかではなくて、自殺です。だから、本当にそういったことを考えていけないといけないという段階になったと思いますし、また、このところコロナ前からそうですが、これは本当に日本の事件なのかと思うような痛ましい事件が増えてきているような感じを受けます。先日の安倍元首相が凶弾に倒れられた事件にしても、あるいは、相模原市の痛ましい障害者施設の殺傷事件、あるいは、電車の中での切りつけ事件とか、もう日本では考えられなかった、安全安心、先ほど松行委員からも防災のお話もありましたが、防犯ということ、あまり日本ではまちづくりで、活力と魅力溢れるということに、その前提としてあまり考えることが、必要がなかったわけですが、そういうことを考えなければならぬ社会になってきていると思います。それは先生方の、やはり萩先生が、ヒップホップの、最初にDVD付きのテキストを出されたり、いろんな形で地域の老若男女に、体を動かすことを教えてこられたことや、また、まちづくりのハードでも松行先生がウォークアブルなまちづくりということを提唱されてこられたり、麦倉先生も共生の社会学ということで、最後、そういった部分、障害者のこととか、いろんなご提言いただいてきたわけですけども、神奈川県はいつの時代もどういうわけか、コロナも、ダイヤモンドプリンセス号も最初でしたし、時代の先を考えていけないといけない県であると思いますし、あるいは、そうあるべきだと思いますし、そういった未病も含めたその心と体の健康こそが、安全安心なまちづくりになって、そしてそれが防災防犯に繋がっていくという、そういった学際的なインターディシプリナリーな議論を、皆様方で一緒にして課題を解決していくしかないのではと思いました。ありがとうございます。

- **高安自治振興部長：** ありがとうございます。それでは他にご意見・ご発言ございますでしょうか。ございましたら、挙手または画面に向かって手を振っていただければと存じます。いかがでしょうか。

- **全委員：** 意見なし

- **高安自治振興部長：** それでは基本目標4につきましての議論は、ここで終了したいと思います。「資料1」に関していただいたご意見につきましては、こちらの方で牛山部会長に報告を差し上げまして、報告書に反映すべき事項を部会長と調整の上、記載させていただきたいと存じますがいかがでしょうか。

- **全委員：** 異議なし

- 高安自治振興部長： ありがとうございます。「資料2」に関する意見につきましては、県の各部局に伝えまして、今後の事業の進め方の参考とするという扱いで考えておりますが、よろしいでしょうか。
- 全委員： 異議なし
- 高安自治振興部長： ありがとうございます。また、議論の中でお預かりいたしましたご質問に関しましては、後程確認した上で、ご連絡を差し上げたいと思います。よろしく願いいたします。
それでは、目標に関する議論はここまでとさせていただきます。

議題(2) その他

- 高安自治振興部長： 次に議題「その他」でございます。事務局の方からお話をさせていただきます。
- 合田地域政策課副課長： 事務局からは今後の予定でございます。本日皆様からいただきましたご意見については部会長に報告した上で、報告書へ反映しまして、9月の神奈川県議会へ報告いたします。そして、県議会での議論を踏まえ、全委員にご出席いただく全体会議で改めて議論いただきまして、年内に報告書を公表する予定としてございます。全体会議の開催日につきましては、例年と同じく11月初旬頃を予定しておりますが、こちらにつきましては別途事務局から連絡させていただきたいと思っております。事務局からは以上でございます。
- 高安自治振興部長： 本日の評価部会、拙い進行で大変恐縮でございました。以上をもちまして閉会とさせていただきます。委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、ご参加・ご議論いただきまして、誠にありがとうございました。